



湾岸・アラビア半島地域ニュース

サウジアラビア：サウジ内政・1月26日定例閣議 (1月26日サウジ国営通信)

26日、アブドゥラー国王は、リヤドにて定例閣議を主宰した。概要以下の通り。

1. アブドゥラー国王が、クウェイトで開催されたアラブ経済社会開発サミットにおいて発表した、相違や分裂を否定し、連帯と統一を妨げる全ての者を阻むことを呼びかけるスピーチの重要性を確認する。
2. 同スピーチは、アラブの現状についての現実と解決策を具体化した聡明なビジョンを含んでおり、賞賛されるものである。スピーチは担当直入さ、明瞭さ、透明性を有するとともに、全てのアラブ諸国が相違を乗り越え、結果を強化することを追及しており、それを通じてアラブが希求している強靭さと勝利を実現し、直面している困難に立ち向かうことができるであろう。
3. 全てのアラブ諸国が、相違を乗り越える機会をつかみ、地域諸国とその国民、特にパレスチナ問題の利益にかなう和解と団結を求めよう呼びかける。
4. サバーハ・クウェイト首長の采配によるアラブ経済社会開発サミットの建設的な成果、クウェイト宣言及びサミットの決定事項は様々な分野にわたっており、賞賛されるものである。
5. イスラエルの残忍な攻撃に対抗したガザの人々の確固とした勇気に敬意を表する。イスラエルは恥ずべき犯罪を行い、全ての人々をひどい目に遭わせた。全世界がその犯罪の目撃者であるが、イスラエルは気にもとめていない。
6. ガザ地区におけるイスラエルの犯罪、数千の無力な無辜の民の殺害、広範囲にわたる財産やインフラの犯罪的な破壊について、アラブ、国際的な運動が包括的な捜査を行うよう呼びかける。これらのイスラエルの行動は、国際人道法の目に余る違反であり、その犯罪に対するイスラエルの責任を追及する必要がある。
7. 2002年のベイルート・サミットにおいて提示されたアラブ和平イニシアティブを通じて、イスラエルは和平の機会を得ていたのである。しかしながら、アブドゥラー国王が述べたとおり、「アラブ和平イニシアティブは、永久に交渉のテーブルの上に置かれているわけではない」。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799